

# 世界の穀物需給の動向とその規定要因に関する考察

## 【目次】

序章 課題と方法	第2節 穀物自給の可能性
第1章 世界の穀物市場構造の変化	(1) 初冬播きハルユタカノへの期待
第1節 世界の穀物市場の背景	(2) イネの飼料化
第2節 世界の穀物需給の現状	第3節 食糧自給率向上に向けて
(1) 小麦の需給動向	第4章 持続可能な穀物生産
(2) トウモロコシの需給動向	第1節 世界の穀物生産の展望
第2章 地球環境問題が招く食糧危機	第2節 持続的な穀物生産への課題とその取り組み
第1節 地球温暖化とは	終章 総括
第2節 地球環境と食糧生産	参考文献
第3章 わが国の食糧問題	あとがき
第1節 食糧自給率の動向と低下の要因	

## 【研究目的】

戦後の目覚ましい経済発展により、わが国は今や嗜好を求める時代となり、私たちは食べ物に何不自由なく育ってきたように思える。しかし今、わが国でも食糧危機をむかえてもおかしくない時代がやってきている。先進国と発展途上国の食料供給の不均衡、地球環境問題、購買力不足、政情不安など様々な問題が重なり合い、今世界中で食糧問題が深刻化している。食料供給の大半を輸入に頼るわが国は、今後どうすればよいのか。わが国の食糧問題も踏まえながら、世界の穀物需給の現状を把握することを目的とし、私たち自身が果たすべき役割を考え、持続可能な穀物生産の課題について考察する。

## 【方法】

文献、インターネット等を参考に情報収集・分析を行い、世界が抱える食糧問題と日本が抱える食糧問題について把握し、今後の穀物生産を持続可能なものへとするための取り組みを考察する。

## 【結果】

現在、世界の人口は増え続けており、国連の人口推計によると2050年には91億人に達すると予想されている。生活水準の向上によって、畜産物消費の増加が予想されており、家畜のエサとして使用されるトウモロコシなどの穀物の消費量が大幅に増加する可能性がある。作物の品種改良や単収の増加により、これまで大量の穀物の増産に繋げてきたが、近年異常気象の大量発生や、地球環境の悪化によって、今後の人口増加に伴った穀物増産は困難であるとされている。人が生きる上で欠かすことのできない食糧、その主食となる穀物の生産向上に向けて、私たち一人一人が食に対する意識を高め、限りある資源を有効に利用していくことが重要となる。わが国では、食の欧米化により米の需要が減少している中、水田を潰していくのではなく、長年培ってきた稲作技術を利用して米を家畜の飼料として使用し、食糧自給率に繋げようという動きがある。また、食糧自給率の向上にあたっては、国民の生産行動と消費行動があってこそ成り立つもので、私たち消費者が食生活を考え直さなければ、自給率向上の達成は不可能である。その課題として、まず食糧の大量廃棄をなくすことだ。食糧は単なる商品ではなく、人の生命を支える生命財であることを一人でも多くの人々が認識し、それを日々の生活に生かし行動に移していく必要がある。個人の取り組みが、地域の活性へと発展し、地域から国へ、国から地球へと繋がっていく。

## 【参考文献】

- 茅野信行著『アメリカの穀物輸出と穀物メジャーの発展』(中央大学出版部、2004年)  
唐沢敬編著『越境する資源環境問題』(日本経済評論者、2002年)  
船瀬俊介著『食民地 アメリカに餌づけされたニッポン』(ゴマブックス株式会社、2002年)  
日本農業市場学会編『農業市場の国際的展開』(筑波書房、1997年)